

広島で学んで良かったと思える日本一の教育県の実現

本県では、平成22年10月に「将来にわたって『広島に生まれ、育ち、住み、働いて良かった』と心から思える広島県の実現」を基本理念とした「ひろしま未来チャレンジビジョン」（以下、「チャレンジビジョン」という。）を策定した。この「チャレンジビジョン」に基づき、県教育委員会では、平成26年12月に、グローバル化する21世紀の社会を生き抜くための新しい教育モデルの構築を目指して「広島版『学びの変革』アクション・プラン」を策定し、これからの社会で活躍するために必要な資質・能力の育成を目指した主体的な学びを促す教育活動を積極的に推進することとしている。

1 広島で学んで良かったと思える日本一の教育県の実現

本県で学んだ子供たちが、将来社会の中で活躍し、「広島で学んで良かった。今の自分があるのは、広島あの学校で、あの先生に学んだお陰だ。」と、本当に自信をもって言える、自慢ができる、そういう子供たちを育てていきたいと考えている。

本県では、これまで「新たな『教育県ひろしま』の創造」に向けた取組を積極的に進め、一定の成果を上げており、今後、更に教育の充実を図り、「広島で学んで良かったと思える日本一の教育県」を実現するためには、全ての子供の能力と可能性を最大限高める教育の実現を推進していくことが重要である。

全ての子供たちは本来、「～できるようになりたい」、「～が分かるようになりたい」といった願いや希望をもっており、それに対し、教育のプロである教師は、全力で応えていく必要がある。

しかしながら、子供たちは、日々の授業等において、何らかの原因でつまずいてしまうと、それがきっかけとなって自信を失い、「どうせ自分にはできない」、「やっても無駄だ」などと投げやりになるなど、何に対しても前向きに取り組もうとしなくなってしまう状況に陥りやすい。

そういった意欲を失っている子供たちに対し、「～しなさい」、「なぜ～できないの」などと強制や批判を繰り返すだけでは、到底、教育的な効果は望めず、そういったときに、子供たちが自らの主体的な選択と納得によって自ら学ぶように導くのが教師であり、教育のプロとして真剣に考えていく必要がある。

その中で、子供たち一人一人に、今の自分が実現したい夢や目標を、「こうなりたい」、「こうありたい」という具体的でありありとした鮮明なイメージ（上質イメージ）としてもたせることが大切である。上質イメージをもった子供たちは、それを実現しようとして、「いつまでに何をやる」、「この段階までにこうしておく」といった実現までのプロセスを自ら考え、それに沿って行動できると考える。

そのためにも、まずは、教師自身が、教育のプロとして「こうなりたい」、「こうしたい」といった上質イメージをしっかりと持ち、それに向けて日々研鑽していくことが大切である。

そういう努力をしている教師の姿を見て、子供たちは、「あの先生のようにになりたい」、「ああいう人になりたい」という上質イメージをもち、それを目指して自らも行動していく子供に育っていくのである。

教師や学校は、子供たちに上質イメージをもたせることや、子供たち自身が上質イメージをもつことができるように、日々の教育活動の中で子供たちと真剣に向き合い、「～って面白い」、「～ができるようになるとこんなに良いことがある」、「自分でも努力すればできるようになる」ということを体感させ、それを認める。こういった経験を積み重ねることにより、子供たちは自信を回復し、「こうになりたい」、「こうありたい」と、更に上質なイメージをもつことができるようになって考えている。

このように、子供たちが自らの夢や目標に向けて挑戦し、学び続け、成長し続けるよう、教職員が一体となって学校全体で支え続けることで、「広島で学んで良かったと思える日本一の教育県の実現」につながるものと考えている。

2 県教育委員会の施策（令和2年度の主要施策の概要）

「チャレンジビジョン」の「四つの政策分野」のうち、教育委員会が大きく関わる「人づくり」の分野には、「人の集まりと定着」、「教育」の二つの領域が設定されている。また、「安心な暮らしづくり」の分野には「福祉」、「防災・減災」が、「豊かな地域づくり」の分野には「中山間地域」、「魅力ある地域環境」が設定されている。

「チャレンジビジョン」に掲げる目指す姿を着実に実現していくために、令和2年度に特に重点的に取り組むべき施策やその方向性を示した「県政運営の基本方針2020」のうち、県教育委員会は、「デジタルトランスフォーメーションの推進」とともに「希望をかなえるための後押し」として、「社会で活躍する人材の育成」に重点的に取り組んでいく。

また、平成28年2月、「広島県 教育に関する大綱」（以下、「大綱」という。本誌P4）が策定された。「大綱」は、乳幼児期における質の高い教育・保育の推進や家庭の経済状況等に応じた適切な支援など、教育委員会と知事部局が連携して取り組む必要がある施策も含んだ、おおむね5年間の本県教育施策全般の基本的方向性を取りまとめたものである。

「大綱」においては、「幼児期から大学・社会人まで」を見据え、学校・家庭・地域に加え、経済界や産業界も含めた「オール広島県」で、「生涯にわたって主体的に学び続け、多様な人々と協働して新たな価値を創造することのできる人材」を育成し、広島で生まれ、育ち、住み、学んだ全ての者が、将来、「広島で学んで良かった」と思える、さらには、全国から、「広島で学んでみたい」と思われる日本一の教育県を実現していくこととされている。

さらに、「チャレンジビジョン」及び「大綱」を踏まえ、教育委員会の中期的な施策等を明確にするため、平成29年2月に新たな「広島県教育委員会主要施策実施方針」（本誌P5）を定め、八つの柱に基づいて、30の取組を展開している。

令和2年度主要施策の概要



広島県教育委員会主要施策実施方針

～一人一人が、生涯にわたって主体的に学び続け、多様な人々と協働して新たな価値を創造する人づくり～

- ◆「幼児期から大学・社会人まで」を見据えた教育の推進
- ◆本県の特徴を最大限生かした「広島らしい」教育の推進
- ◆オール広島県で取り組む「日本一の教育県」の実現

社会で活躍する人材の育成

広島版「学びの変革」アクション・プランの全展開の推進 ～「学びの変革」の更なる加速化～

★「学びの変革」推進事業 新規

「学びの変革」アクション・プランの目指す姿の実現に向けて、ICTを基盤とする環境整備による探究的な学習活動の充実や、児童生徒一人一人の学習進度・能力・関心に応じた個別最適な学びの実現に向けた実証研究など、「学びの変革」の更なる加速のための取組を推進

★「GIGAスクール構想の実現に向けたICT基盤整備事業【令和元年度2月補正】 新規

ICTを活用した効果的な教育を実現するため、学校におけるネットワーク環境の整備を推進

★「学びの変革」牽引プロジェクト

「学びの変革」を牽引的に実践する広島教習学園中学校・高等学校を開設し、そのノウハウを全国的に共有することにより、広島県全体の「学びの変革」を早期に実現

★課題発見・解決学習推進プロジェクト

小・中・高等学校において「主体的な学び」を促進する教育活動を充実し、児童生徒の資質・能力（コンピテンシー）の向上を図るため、学校全体での組織的なカリキュラム・マネジメントの実現に向けた教員研修の充実・実施

★異文化間協働活動推進事業

全ての小・中・高等学校において異文化間協働活動が活発に行われ、高校段階で毎年1,000人以上の生徒が海外に留学するために必要な教育環境を整備

★「遊び学び育つひろしまっ子！」推進プロジェクト

全県的な乳幼児期の教育・保育の質の向上に向けて、乳幼児教育支援センターを拠点に、家庭教育や教育・保育施設への支援などの施策を総合的に推進

★ものづくり人材育成日本一プロジェクト

「ひろしま “ものづくり” 技能検定」や熟練技能者等による指導を通して、“ものづくり”に対する高い「技と心」を有した技能系人材を継続的に育成

★特別支援教育ビジョン推進事業 一部新規

専門的な指導や技能検定など職業教育の充実等により、障害のある生徒等の自立や社会参加を図るとともに、医療的ケア実施体制の整備や在籍者数増加に対応した教育環境の充実・整備に向けた傾斜を実施

★ことばの教育の推進

全ての教育活動における言語活動の充実

★キャリア教育の推進

発達段階に応じた系統的なキャリア教育の推進

★教職員指導力向上事業

学校経営基盤の確立と教職員個々の能力・適性等に応じた指導力の向上

★広島県「教師養成塾」事業

小学校教員を志す大学生を対象とする実地研修や集合研修を実施し、実践的指導力の基礎を育成することにより、広島県の教育を担う人材を育成

★学校業務改善推進事業

スクールサポートスタッフや部活動指導員の活用などにより、教員が本来担うべき業務に専念し、健康で生き生きとやりがいをもって勤務できる環境づくりを推進

★学びのセーフティネット構築事業 一部新規

小学校低学年からの学習のつまずきの要因・背景を把握するための「新たな学力調査」の実施や、多様な児童生徒に対応した学びの選択肢の提供に向けて、不登校等児童生徒への支援の充実、外国人児童生徒への教育の充実などの相談支援体制等の強化を図るとともに、ICT機器の購入に係る給付制度の創設などを通じて、家庭の経済的事情等にかかわらず、全ての子供の能力と可能性を最大限高められる教育を実現

★生徒指導総合対策事業

不登校等をはじめとした生徒指導上の諸課題の未然防止や早期対応を行うため、生徒指導及び教育相談体制の充実など、児童生徒の支援に向けた取組を推進

★体力・運動能力向上推進事業

児童生徒の体力・運動能力調査の実施、学校体育スポーツ研修等による、児童生徒の体力・運動能力の向上や運動部への地域指導者派遣

★オリンピック・パラリンピック教育推進事業

学校でオリンピック・パラリンピック教育を実施することにより、オリンピック・パラリンピックムーブメントを推進し、児童生徒のスポーツに対する学びを促進

★三次中学校・高等学校整備事業

備北地域において、中高一貫教育を受けられる機会を選択できる環境を整備

★コミュニティ・スクール推進事業

全県立学校に導入したコミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）を活用し、学校の目標やビジョンを地域住民等と共有し、連携・協働のもと学校を運営

★魅力ある高校づくり推進事業

1学年1学級規模校の活性化に向けた取組への支援や地域の特性・社会のニーズに対応した魅力ある高校づくりを進めるための調査・研究を実施

★中山間地域の次世代を担うリーダーの育成

高校生が地域や市町と一体となり、地域の活性化に向けた取組を行うことを通じて、地域への愛着や理解を深め、次世代のリーダーとして活躍できるような人材を育成

★地域学校協働活動推進事業

市町における放課後子供教室・地域未来塾の実施や地域学校協働活動推進員等の配置により、学校・地域の連携を強化し、地域の教育力を向上

★県立学校施設整備事業

老朽化対策（長寿命化改修など）や防災機能の強化、情報教育の推進のほか、県立高等学校再編整備に伴う教室改修など、安全・安心で質の高い教育環境整備を推進

広島県 教育に関する大綱

～ 一人一人が、生涯にわたって主体的に学び続け、
多様な人々と協働して新たな価値を創造する人づくり ～

この度、平成27年4月の地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部改正により、知事において定めることとされた「教育に関する大綱」について、次のとおり策定しました。

「広島県 教育に関する大綱」の概要

■「広島県 教育に関する大綱」は

- ✓ 教育委員会が所管する施策
- ✓ 知事部局が所管する施策
- ✓ 教育委員会と知事部局が連携して取り組む必要がある施策

を合わせた[今後おおむね5年間の本県教育施策全般の基本的方向性](#)を整理

「広島県 教育に関する大綱」

3つの柱

幼児期から
大学・社会人
まで

オール広島県

広島らしさ

➡ 大綱全体を貫くコンセプトとなる **テーマ**

一人一人が、生涯にわたって主体的に学び続け、多様な人々と協働して
新たな価値を創造する人づくり

➡ 「本県教育の現状」「本県の育成すべき人材」など、4つの柱
で構成する **総論**

- ・本県教育の現状
- ・本県の育成すべき人材
- ・「広島らしい」教育の推進
- ・オール広島県で取り組む「日本一の教育県」の実現

➡ 「学校教育」に関すること、「学校教育等を支える環境」に関
することなど、9つの **各論**

- 【1】乳幼児期における質の高い教育・保育の推進
- 【2】「知・徳・体」のバランスのとれた「基礎・基本」の徹底
- 【3】「これからの社会で活躍するために必要な資質・能力の育成を目指した主体的な学び」を促す教育活動の推進
- 【4】一人一人の多様な個性・能力をさらに生かし、他者と協働しながら新たな価値を創造していくことができる力の育成
- 【5】今後の社会経済環境の変化に対応できる高度な資質・能力を有する人材の育成
- 【6】教育上特別な配慮を必要とする児童生徒等への支援
- 【7】教職員の力を最大限に発揮できる環境の整備
- 【8】安全・安心な教育環境の構築
- 【9】生涯にわたって学び続けるための環境づくり

ひろしま未来チャレンジビジョン (改定版)

人づくり

新たな経済成長

安心な暮らしづくり

豊かな地域づくり

教育に関する大綱「広島で学んで良かったと思える日本一の教育県の実現」

一人一人が、生涯にわたって主体的に学び続け、多様な人々と協働して新たな価値を創造する人づくり

総論 ◆本県教育の現状 ◆本県の育成すべき人材 ◆「広島らしい」教育の推進 ◆オール広島県で取り組む「日本一の教育県」の実現

広島県教育委員会主要施策実施方針

8つの柱	各柱のねらい	30の取組
1 乳幼児期における質の高い教育・保育の推進	乳幼児期における教育・保育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培い、その後の学校教育における生活や学習の基盤となる役割を担う重要なものであることから、その内容の改善・充実を図り、小学校教育との接続を一層強化する。	(1)乳幼児期の教育・保育の充実
2 「知・徳・体」のバランスのとれた「基礎・基本」の徹底	初等中等教育段階は、生涯にわたる学習の基礎を培う重要な時期であることから、乳幼児期までに培った力を生かしながら小学校教育を充実させ、中学校以降の教育へと円滑に接続させていく。 特に、今後、児童生徒の「主体的な学び」を促す教育活動を全県的に展開していくことから、その土台となる「基礎・基本」の確実な定着を図り、児童生徒に「確かな学力」、「豊かな心」、「健やかな体」をバランスよく育成する。	(1)「基礎・基本」の徹底 (2)ことばの教育の推進 (3)道徳教育の充実 (4)体験活動の推進 (5)生徒指導上の諸問題対策の推進 (6)健康教育の推進 (7)食育の推進 (8)児童生徒の体力・運動能力の向上 (9)キャリア教育の推進と高校生の就業能力の強化
3 「これからの社会で活躍するために必要な資質・能力の育成を目指した主体的な学び」を促す教育活動の推進	児童生徒一人一人の「基礎・基本」の確実な定着を目指した教育活動に加え、「知識を活用し、協働して新たな価値を生み出せるか」を重視し、「これからの社会で活躍していくために必要な資質・能力の育成を目指した主体的な学び」を促す教育活動、すなわち「学びの変革」を全国に先駆け、全県的に展開する。	(1)新しい教育モデルの構築に向けた教育環境の整備 (2)「課題発見・解決学習」の推進 (3)異文化間協働活動の推進
4 一人一人の多様な個性・能力をさらに生かし、他者と協働しながら新たな価値を創造していくことができる力の育成	一人一人が生涯にわたって自己の能力と可能性を最大限に高め、多様な個性・能力をさらに伸ばし生かしていく中で、多様な価値観を受容し、社会の様々な人々と協働・協調しながら、新たな価値を創造していくことができる力を育成しつつ、自己実現と社会貢献を図ることができるようにする。 また、本県がさらなる成長や持続的な発展を遂げていくため、我が国や郷土の伝統や文化についての理解を深め、広島への深い愛着や広島で学んだことへの誇り、将来広島に貢献したいという意欲などを有した、多様で厚みのある人材層を形成する。	(1)多様で厚みのある人材層の形成に向けた県立学校の体制整備 (2)現代的・社会的な課題等に対応した学習の推進 (3)ジュニアスポーツの推進
5 教育上特別な配慮を必要とする児童生徒等への支援	全ての子供が、生まれ育った環境や障害の有無などにかかわらず、健やかに育ち、夢や希望、高い倫理観や豊かな人間性を持ち、意欲にあふれた自立した若者へと成長し、充実した生活を送る上で、自らの能力を伸長し、社会において発揮する機会が与えられるよう取り組む。	(1)特別支援教育の充実 (2)家庭の経済状況等に応じた適切な支援 (3)様々な困難を抱えた子供・若者への支援
6 教職員の力を最大限に発揮できる環境の整備	高い倫理観と豊かな人間性、子供に対する教育的愛情と教育に対する使命感などを有した教職員を採用していくとともに、教職員一人一人が持っている力を最大限に発揮し、自由闊達な雰囲気の中で生き生きと教育活動に取り組むことのできる環境を整える。	(1)教職員の資質・指導力の向上 (2)適切な人事管理の推進 (3)学校経営基盤の強化 (4)業務改善の推進 (5)情報化に対応した教育の推進
7 安全・安心な教育環境の構築	児童生徒が充実した教育活動を行い、十分な教育効果を上げるため、安全で安心して学べる学校環境の整備とともに、児童生徒の学習環境を整える。 あわせて、防災教育等の学校安全に関する教育の推進や、学校・家庭・地域・関係機関との連携の強化などにより、学校における児童生徒等の安全の確保に努める。 また、安全・安心な学校環境を構築するため、家庭と地域の連携により、家庭教育への支援を行う。	(1)安全・安心な学校環境の整備 (2)家庭教育への支援 (3)学校・家庭・地域が連携した教育の推進
8 生涯にわたって学び続けるための環境づくり	学校や公民館、図書館等の社会教育施設をはじめとする学びの場を拠点として、地域の学びを支える人材を育成するとともに、関係機関と連携・協働しつつ、家庭や地域の教育力向上を目指した学習機会を充実する。 また、地域の誰もが生涯にわたり、興味、関心、適性などに応じて、気軽にスポーツや芸術・文化に親しむことができる機会や環境を整えるため、公共スポーツ施設や文化施設の充実・改善や学校体育施設の有効活用など、多様なスポーツ・文化活動の場づくりに取り組む。	(1)生涯学習・社会教育を進める環境づくり (2)優れた文化に親しむ環境づくり (3)地域スポーツの推進